

中2死亡「自殺練習」調査せず

大津市教委「加害者側にも人権」

これって本当？ 何を守ろうとしているのか！？ 誰を守ろうとしているのか！？

大津市の市立中学2年男子生徒が自殺したことを巡って行われた全校アンケートで「(男子生徒が)自殺の練習をさせられていた」との回答を市教委が公表しなかった問題で、市教委が加害者とされる同級生らに対して直接、真偽を確認していなかったことがわかった。市教委はこれまで、非公表にした理由を「事実を確認できなかったため」と説明していた。

市教委によると、「自殺の練習」は、生徒16人が回答に記していた。うち実名で回答した4人には聞き取りをしたが、事実は確認できず、それ以上の調査もしなかったという。加害者とされる同級生らにも聞き取りを行う機会があったが、「練習」については一切尋ねなかったとしている。

その理由について、市教委は読売新聞に対し、「事実確認は可能な範囲でしたつもりだが、いじめた側にも人権があり、教育的配慮が必要と考えた。『自殺の練習』を聞いただけせば、当事者の生徒や保護者に『いじめを疑っているのか』と不信感を抱かれるかもしれない、との判断もあった」と説明。結局、事実がつかめなかったとして、非公表にしたという。

しかし、市教委は「蜂の死骸を食べさせられそうになっていた」「毎日のようにヘッドロック(頭を絞め付けるプロレス技)をされていた」「体育大会で手首を後ろ手に縛られた」などの回答については、加害者とされる同級生らに直接確認し、経過も公表していた。いずれの行為も、同級生らは「いじめではなく、遊びのつもりだった」と否定していたという。

(平成二十四年七月六日 読売新聞 朝刊)

過去の新聞記事から抜粋

中2、飛び降り自殺か＝滋賀 (平成23年10月12日)

11日午前8時10分頃、大津市尾花川のマンション敷地内で、住人の市立中2年の男子生徒(13)が血を流して倒れているのをマンション管理人の男性(64)が見つけ、119番。男子生徒は病院に運ばれたが、全身を強打して間もなく死亡した。最上階の14階の通路柵(高さ約1・1メートル)に乗り越えたような跡があり、大津署は自殺の可能性が高いとみて調べている。生徒が通う市立中によると、「いじめ」など生徒間のトラブルの情報は無かったという。

中2 いじめ自殺訴訟 大津市側、争う構え 因果関係「断じられない」＝滋賀 (平成24年5月23日)

(略) 男子生徒はいじめを理由に自殺したとして、両親が加害者とされる同級生3人とその保護者、大津市を相手取り、約7700万円の損害賠償を求めた訴訟の第1回口頭弁論が22日、大津地裁であり、被告側は請求の棄却を求めて全面的に争う姿勢を示した。

市側は答弁で、いじめとされる暴力や嫌がらせがあったことは認めたが、「いじめを苦にして自殺した、と断じられない」と主張。教員らがいじめの一端を知りながら放置したとの主張については「具体的な指摘がない」とした。同級生と保護者は「いじめとされた行為は、いずれも遊びだった」とした。(略)

中2 自殺「練習、真実なら・・・」大津市長、涙声 ◇市長部局に調査事務局 (平成24年7月7日)

大津市の越直美市長は再調査を表明した6日の定例記者会見で、遺族に対し「会いたいとは思っていたが、行動しなかった。大変申し訳ない」と陳謝。市教委が実施した全校生徒アンケートに対する「自殺の練習をさせられた」との回答について、「真実なら痛ましい話だと思う」と語り、涙ぐんだ。

市長は、「事実によっては聞き取りができていない部分がある」として、不十分だったとの考えを示した。再調査のための調査委については「市教委では限界がある」ことを理由に、事務局を市長部局に置く方針。市長は、いじめたとされる同級生3人、その保護者と市が遺族から起こされている損害賠償請求訴訟の答弁書についても「(再調査で)事実が変われば(全面的に争うとした)内容も当然変わる」とした。

学校崩壊のシナリオ

緊急対応：自殺防止を！！

大津いじめ自殺県警捜査

20人で専従班 生徒ら任意聴取へ

大津市立中学2年の男子生徒(当時13歳)がいじめを苦に自殺したとされる問題を、滋賀県警は11日、少年事件を担当する生活安全部の捜査員約20人で専従班を設置、捜査に乗り出した。加害者とされる同級生らから任意で事情聴取などを進め、市教委が実施した同校生徒への2回のアンケートでわかった男子生徒への暴行や嫌がらせなど、いじめの実態解明を目指す。

男子生徒へのいじめについて、2回のアンケート結果を通じて、「トイレで殴る」などの暴力行為や「ハチの死骸を食べさせる」などの嫌がらせがあったことがわかった。「脅して銀行口座番号を教えさせ、金をとった」などの恐喝行為もあったとされ、「自殺の練習」といって首を絞めた「葬式ごっこをしていた」との情報もあった。

県警はこうした行為が、強要や暴力行為などに当たると可能性があるとみており、同部の少年事件特別捜査隊を中心に、同級生や目撃した生徒らから任意で事情を聞くなど慎重に調べている。

いじめを巡っては、男子生徒の自殺直後から昨年未までに3度、父親が大津署に被害届を出そうとした。これに対し、署は「被害者が(死亡していて)不在で、刑事事件としての事実認定は難しい」「加害者を家庭裁判所に送っても処分がどうなるかわからない」などと受理しなかった。

県警幹部は「少年一人が命を自ら絶つたのだから、何があったか事実や原因を究明する。自殺を事前に防げなかったか、再発防止も含め、専門の捜査員を入れて集中的に捜査したい」と話している。

「因果関係ある」発言 教育長「市長の判断」

大津市教委の沢村憲次教育長は11日午前、記者団の取材に対し、「いじめと自殺との間に因果関係はある」とした越直美市長の10日夜の発言について、「市長自身の判断だ。直接聞いておらず、わからない。外部調査委員会が結果が出れば真摯に受け止める」と述べ、市長と市教委との認識のずれをうかがわせた。

一方、遺族と係争中の損害賠償請求訴訟で和解する意向を表明した越市長は11日、市の部長会で「まずは訴訟を中断し、外部調査委員会が事実を徹底的に調査する。調査が終わった後、私としては和解したい」と述べた。さらに、「市教委だけの問題ではなく、市全体で対応する必要がある」とし、各部署に相次いでい

中2転落死 いじめ調査

浜松市教委 第三者委員会を設置

浜松市中区の市立中学2年生の男子生徒(当時13歳)が6月12日に自宅マンション屋上から転落死し、同中の校長が保護者会で「生徒はいじめを受けていた」と発言していたことが分かった。市教育委員会は11日、いじめの有無を調査する第三者委員会を発足させることを決めた。

静岡県警浜松中央署によ

ると、屋上には生徒の靴跡しかなく、自殺の可能性が高いとみられる。遺書は見つかっていない。

市教委などによると、同中は遺族の要望を踏まえ、いじめを調査。保護者対象のアンケートで複数が「生徒は学習塾帰りにいじめを受けていた」と記述していたため、同中が塾に確認した。校長は6月28日から10日にかけて行った3回の保護者会で生徒のいじめを報告していた。

同中によると、生徒は今

年4月中旬の塾帰りに、同じ塾に通う同中の生徒5、6人から自転車を押されたり、体を押されたりした。見ていた生徒も含めると、その場には約10人いたという。通行人から通報を受けた塾の講師が生徒たちに注意。男子生徒は「大丈夫」と答えていたという。

同中はいじめについて「塾側から『厳しい指導をして解決した』と聞いている。生徒の死因には直接結びつけられない」としている。

昭和61年、中野区立富士見中学校で起きたいわゆる「葬式ごっこ事件」。戦慄的な出来事で、私の中にも鮮明に刻まれています。私が新採の頃で、もう26年も前のことになります。若い先生方も何かの機会に耳にしていることと思います。

この教訓(語弊があるかも知れませんが、まったく生かされていないのが大津です。中野区の「葬式ごっこ」は、担任教師ら4人が荷担し寄せ書きを添えるなど、いじめ自殺事件として社会的に注目された事件です。

この学校はその後、統廃合されました。

